



沖縄県公立学校教員等育成指標の活用
所長 宮里 寧

新年あけましておめでとうございます。今年も、皆様の二おすに
いたします。さて、教員の大量退職時代を迎え、これから学校の
二十代から三十代の若手教員が半数以上を占めるようになり、ま
若手の職能の向上は、学校運営に直結する喫緊の課題となりました。し
ラン教員が若手を育てるというこれまでの育成スタイルは、年齢構成の割合を考
と無理が生じています。そのような状況の中、全国で、「教員育成指標」が策
資質向上に努められるよう策定されたものです。改めて、資質・能力向上の
確認してみましよう。

一、校長・教員の資質向上指針が定められた

2016年教育公務員特例法等の一部を改正する法律の公布について（通知）に
示された教育公務員特例法等22条の2の規定により、公立の小学校等の校長（副
校長・教頭含む）・教員の計画的かつ効果的な資質の向上を図るため、文部科学大
臣により「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の策定
に関する指針（以下「指針」）が2017年3月31日に定められました。

二、「校長・教員の資質向上を図る指標」の策定が義務づけられた

都道府県・指定都市教育委員会、国が定めた「指針」を参酌し、地域の実情に
応じた「校長・教員としての資質に関する指標」を策定することが義務づけられま
した（同法22条の3）。

三、「教員研修計画」の策定が義務づけられた

都道府県・指定都市教育委員会は、作成した「指標」を踏まえ、当該校長・教員
の研修について、毎年度、体系的かつ効果的に実施するための計画（教員研修計画）
を定めることとなりました（同法22条の4）。教員研修計画では、任命権者が実
施する初任者研修、中堅教諭等資質向上研修その他研修に関する基本的な方針など
を定めます。

四、「中堅教諭等資質向上研修」が創設された

これまでの10年経験者研修が「その在籍期間が10年に達した後相当の期間内
に、教諭としての資質の向上を図るための研修」だったのに対して、中堅教諭等資
質向上研修は、教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的
な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行するうえで必要と
される資質向上を図る研修です。

五、「育成指標」参考を求める力を明確化

本県でも「教員育成指標」が策定されています。各学校は、この指標を確認し、
自校の実情に応じて教員に求める力を明確化・具体化することが重要です。学校で
はよくある分野に秀でたベテラン教員に仕事を任せきりにしてしまうことがあり
ます。しかし、ベテランに全ての仕事を委ねることにより、若手教員・中堅教員がそ
事に触れる機会がなくなり、仕事の内容や機能、学校での重要性などを知ることに
できなくなります。このままでは、ベテランが異動や退職した後に大きな不安が残
ります。そのため、組織としての人材育成の方針や推進体制を明確にしなければ
なりません。具体的には、組織としての活用です。期首面談で「教員育成指標」を
もとに、本人の資質・能力の現状をつかませ、その上で職員の業務が学業に
たす役割を説き、具体的な成果目標の共有を図ります。その後の「教員育成指標」で
期的なキャリアアステージを見通させ、学び続ける意欲に弾みをつけたいものです。
長

1月の教育研究所事業予定

- 21日（木）第13回 初任者研修
 - 26日（火）教育研究員中間検討会Ⅱ
- ※ GIGA スクール構想におけるタブレット端末導入研修（1月5日～）各学校にて開催

那覇市指導案様式について

教育研究所のホームページに、学習指導要領の趣旨を踏まえた、那覇市指導案様式を、掲載しています。

- ①指導案づくりについて
- ②各教科様式
- ③特別の教科 道徳 様式
- ④特別活動様式
- ⑤各教科等の記入について



指導案作成のポイントを、指導案記入例として示しています。また、特に配慮が必要な内容について説明を記載しました。校内研修や経年研修また、日常の授業づくりのヒントとしてご活用下さい。

115期研究員・検証授業

<p>島袋梢 研究員(高良小) 数学的な表現を活用し筋道を立てて考える児童の育成のために、割合の単元で検証授業を行いました。図・言葉・式をいかした交流を通して問題解決に取り組みました。</p>	<p>神谷朝勇 研究員(古蔵小) 「もののとけ方」の単元で、ICTを活用し問題の焦点化や実験結果の可視化を手立てに検証授業を行いました。とけ方の違いを視点に科学的な考えを深めました。</p>
<p>鵜澤由紀子研究員(真嘉比小) 主体的にコミュニケーションを行う姿を引き出すために、外国語を用いて友達が喜ぶ「ありがとうカード」を作って渡す活動を行いました。</p>	<p>金城 千春 研究員(神原中) 生活発表会での経験を振り返りながら、劇遊びを楽しみました。「受け止める」「つなぐ」援助の工夫で園児の表現する意欲を高めました。</p>